

粕谷 裏高尾の日影林道は生き物観察に最適の高齢者向けルート。沢沿いの林道では表面を細流が走っている所があります。このような「水気」のある所にアゲハチョウの仲間が吸蜜に来ます。前回（7/22）は20匹のモンキアゲハでしたね。今回（7/31）はカラスアゲハ（両端）・ミヤマカラスアゲハ（中央）写真を撮っているとサワガニ君が出てきました。

# 紅葉台



# 新聞

第196号

2025年  
8月23日

発行人：関谷 孝

## 粕谷和夫の観察日記



夏の果物の王様はスイカ。スイカは通常は畑やビニールハウスの中で生産されています。しかし、住宅地の狭い庭に見事なスイカが稔っていました。狭い所でも日当たりさえよければスイカは育つんですね。カラスに見つけられなければと心配です。それにしても南アフリカのカリハラ砂漠が原産地のスイカが八王子の住宅地で立派に育っていることの意外性に驚きました。



7月7日、多摩川の河原での昆虫との出合です。左はトンボの王様オニヤンマです。モンシロチョウを捕まえて食べているところ、むしり取られた羽の1枚が落とされました。右はツノトンボ。「とんぼ」と名が付いていますが、トンボではありません。立派な触角二本あることが相違点です。眼がいいトンボには触角がありません。



6月27日のラインで小石川後楽園の池のカルガモ親子をアップしました。こちらは7月7日の日野市にある根川で出合ったカルガモ親子です。ヒナは6羽いました。根川は人工的な水路でカルガモ親子の隠れ場や餌場が乏しい場所ですが、こんな所にカルガモ親子がいたことに驚きました。近くにはハクセキレイ親子も数羽いたので、鳥からみれば棲みやすい場所かも知れません。

## 季節のたより 田んぼのセグロセキレイ (2025年7月)



この写真（添付）はセグロセキレイの親子（左が子供）です。昨年の7月に八王子・高月水田の休耕田で撮りました。7月の今頃はあちこちで巣立ち直後の親子の野鳥が目立つ季節です。身近なところではツバメの巣立ち雛達が電線に止まっていて親が持ってくる餌を大きな口を開けて待っています。庭や公園ではシジュウカラの親子がにぎやかに植木の間を移動しています。

セグロセキレイは名前の通り背中が黒く、白と黒のコントラストが美しく、長い尾を上下に振りながら歩く姿が特徴的です。日本では急速に分布を拡げているハクセ

キレイとの軋轢（あつれき）があり、個体数が減少する傾向にあるといわれています。

セグロセキレイの英名はJapanese Wagtail（日本のセキレイ）となっていて、日本固有の鳥のように思えますが、実際には日本列島、朝鮮半島、サハリン南部を含む地域に分布しています。日本固有種ではありませんが、地球規模で見るとアジア極東にしかない希少な野鳥です。このように希少な鳥セグロセキレイ親子が田んぼを生息の場としていることに大きな意義があると思います。田んぼは米を作る場だけでなく、ハクチョウ類、ツル類、ガン類、サギ類、シギ類、ツグミなど多くの渡り鳥やセグロセキレイ、キジバト、ムクドリなど留鳥の餌場となっています。

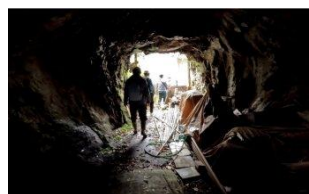
田んぼは鳥の命を支えるだけでなく水辺の生き物の生息の場にもなっています。これを別の言い方をすれば田んぼは生物多様性保全を支える重要な役割を担っているということですね。

今では国（農水省）も田んぼの生物多様性保全機能を重視して環境に配慮する農業を進めることに方向転換して、化学肥料や化学合成農薬を5割以上低減する取組をし、農家には「環境保全型農業直接支払交付金」が支払われるようになっていきます。しかし、日本の米の農家数の減少傾向は止まらず、米不足は今だけでなく今後も続く可能性が指摘されています。米の自給の問題、環境保全の問題は、消費者自身の問題でもあるのではないかと思います。

粕谷和夫のブログ 「鳥見歩る記」

<http://kk-kasuya.cocolog-nifty.com/blog/>

## 戦後80年 戦争の傷跡を訪ねてシリーズ



2025年は戦後80年になります。今回は、八王子市で良く知られている戦跡を紹介します。

① 浅川地下壕(イ地区)場所: 初沢町(高尾駅南西)

概要: 旧日本陸軍が掘削し、中島飛行機の地下工場として使用された巨大な地下壕。総延長は約10kmにも及びます。

特徴: 壕内には削岩の跡やトロツコの枕木跡、ダイナマイトの穴などが残り、当時の緊迫した空気を体感できます。

保存活動: 地元の「浅川地下壕の保存をすすめる会」が見学会を開催しています。

### ② JR 高尾駅の銃撃痕

場所: 高尾駅 1・2 番線ホームの鉄柱(柱番号 31 と 33)

概要: 1945 年 7 月 8 日、米軍機による機銃掃射の痕が今も残っています。

特徴: 弾痕の入射角度や集弾率から、低空での正面射撃だったと推測されています。



紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」の HP に公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。